

テーマ

子どもの学びを地域へ

事業実施地区（中学校区名）	出雲市立河南中学校
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	神門コミュニティセンター 神西コミュニティセンター

テーマの背景

河南中学校区は神門、神西の2地区に分かれており、それぞれにコミュニティセンターと小学校がある。これまでは、2地区合同での事業はなく、中学生になって初めて顔を合わせる子どもたちも多かった。一方、中学生になると、ボランティア活動として地区のイベントに積極的に参加している。中学からともに学ぶ子どもたちの学外での体験を通じた交流を図り、両地区をふるさとと感じ、地区住民に広く発信することで、地域全体でふるさとの良さを再確認してほしいと思い、企画・実施した。

実際の取組

④ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名：ふるさとのナシ狩ってイモ掘ってシジミ汁喰ったら友だちできちゃったツアー

<取組の概要>

神戸川小学校、神西小学校の6年生を対象に実施。神門・神西地区の特産物の農場や収穫場を回り、収穫を体験・見学した。その後、コミュニティセンターにおいて収穫したものを自分たちで調理し、食べながら交流した。

**特産物** 梨（神門）  
シジミ（神西）  
さつまいも（神西）



梨狩り



シジミ漁の見学



芋掘り

<成果と課題>

自分たちで収穫したものを調理し味わうことで、ふるさとの特産物の良さを感ずることができた。各生産者が栽培の苦労やふるさとへの思いを語ることで、子どもたちは学びを深めることができ、また、大人もふるさとについて考える機会となった。

【感想】（アンケートより抜粋）

- ・梨を寒い時でも育てていて（梨農家の方に）感謝すべきだと思う
- ・神西湖のシジミは日本一おいしいから（ふるさとが好き）
- ・（特産物について）知っていることもあったけど、知らないことの方が多かったです。自分たちで作ったシジミ汁や焼いもが食べれたので、すごく楽しかったです。

## ⑤ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名：地区文化祭でのポスター掲示

中学生ボランティアによるふるさとTシャツ作成

### <取組の概要>

「ふるさとのナシ狩ってイモ掘ってシジミ汁喰ったら友だちできちゃったツアー」当日の子どもたちの様子や感想をポスターにして、両地区の文化祭で掲示した。それをもとに、来館した大人が「自分たちが伝えたいふるさと」について考え、付せんに記入し貼ることで共有した。

また、中学生がボランティア活動をする際に着用するTシャツのデザインを一新。中学生がふるさとをテーマに作成したデザイン案を地域の大人と一緒に選考し、作成した。新しいTシャツは、夏祭りや文化祭等の地域イベントでボランティア参加した生徒が着用した。



中学生ボランティア

### <成果と課題>

子どもたちが体験学習で学んだことをポスターにして可視化することで、地域の大人が自らふるさとについて考えるきっかけを作ることができた。また、新しいボランティアTシャツを着て活動する中学生の姿を地域の大人に見てもらい、デザインを通してふるさとの良さを発信した。

#### 【自分たちが伝えたいふるさと】(抜粋)

- ・自然豊かな町 神門地区 神西地区
  - ・盆踊りなど伝統文化をつなげてほしい
  - ・町、村の良さを知らない人達に伝えていきたい
- 今後の課題として、今回得た大人の意見(学び)を今後どのように活かしていくのか検討する必要がある。また、意見を出した大人を協力者として巻き込んでいきたい。中学生のボランティアTシャツについては、単に活動時のユニフォームとしてではなく、ふるさとを考えてデザインしたものであることを、次年度以降の中学生にも伝えていくことが大切である。



文化祭で掲示したポスター

## まとめ

### テーマに迫るためのポイント

- ・子どものころにふるさとの良さを体感することで、大人になってからもふるさとを誇れる大人になることが期待される。
- ・子どもの学習成果を地域の大人に見てもらうことで、ふるさと教育の対象を子どもから地域の大人に広げ、大人の自発的な学びを促した。

### 今後の展望

まず、今年の体験学習に参加した小学生が中学生になり、ふるさとへの思いが詰まったTシャツを着てボランティアに参加することで、ふるさとを思う気持ちがさらに育成されるよう働きかける。そして、将来的には、ふるさとに関心を持ち、地域リーダーや地域運営に参画する人材の育成を目指す。